



## 坪井 元春

TSUBOI MOTOHARU

1994年 神奈川県厚木市出身  
2019年 地域おこし協力隊として岩之入地区に赴任

岩之入地区で初めての地域おこし協力隊として活動する坪井元春さん。任期の2年半が過ぎ、岩之入での生活もあと半年を残すところとなった。

坪井さんは神奈川県厚木市出身。知人から紹介された「にいがたイナカレッジ」で柏崎市地域おこし協力隊のことを知り、岩之入へ見学に訪れて応募、採用された。

岩之入でのミッションは「集落の棚田の保全と維持」、そして「地域の住民の語らいの場を作ってほしい」という2つの内容。地方での暮らしに興味があり協力隊の仕事に挑戦しようと思った坪井さんにとって、このミッションは魅力的に映ったという。「幅広くいろんなことができると思った」と振り返る。

岩之入地区は山々に囲まれた自然豊かな土地。美しい棚田や川に沿って並ぶ家々で集落が形成されている。岩之入地区には「棚田オーナー制度」があり、地域外の棚田オーナーと共に田植えや稲刈り、草刈りなどの作業体験や棚田の管理を一緒に行うというのがミッションの1つ。

大学では農業ビジネスや農業経営などを学んだ坪井さんが実際の作業は初めてで慣れないことばかり。作物の知識

や機械操作、整備、天候によって出来が左右される農業の大変さを痛感した。それと同時に楽しみを持って農業と向き合い、そこに価値を感じて作業を体験したいと考える人も一定数いることを知った。

また、この地域では毎年2月に「弘法大師堂霊塩水祭礼百八灯祭」が行われている。祭りでは大手コーヒーチェーン店に出店を依頼して地域の祭りを盛り上げたり、夏には地域の人たちに声を掛け、節を削って手づくりした竹で流しそめんのイベントやバーベキュー、鍋会などを開催してきた。ところがコロナ禍により、その後の活動は全てストップ。協力隊活動の見直しを迫られた。

そこで、昨年冬から「地域の語らいの場」へ方向転換を図ることにした。それは「地域の人たちが自分たちの住む岩之入のことについて話す場を持とう」というもので「岩之入ファーストステップ」と名付けられた。冬の間集落の人たちへ向けてアンケートを行い、その集計結果を基に、まずは地域の困りごとを皆で話してみようと今年4月から定期的に開催し、動きだしている。

「主役は岩之入の人たちです。今はまだ見えなくても奥底では何かしら変化が起きている。数年先でいいから形として地域に変化が現れればそれでいいんです」。

12月に行われる地域の臨時総会には、岩之入の人たちが描く未来への思いを発表できるよう準備を進めている。



facebookも  
チェック!

お問い合わせ

✉ kwz.iwa@gmail.com

